

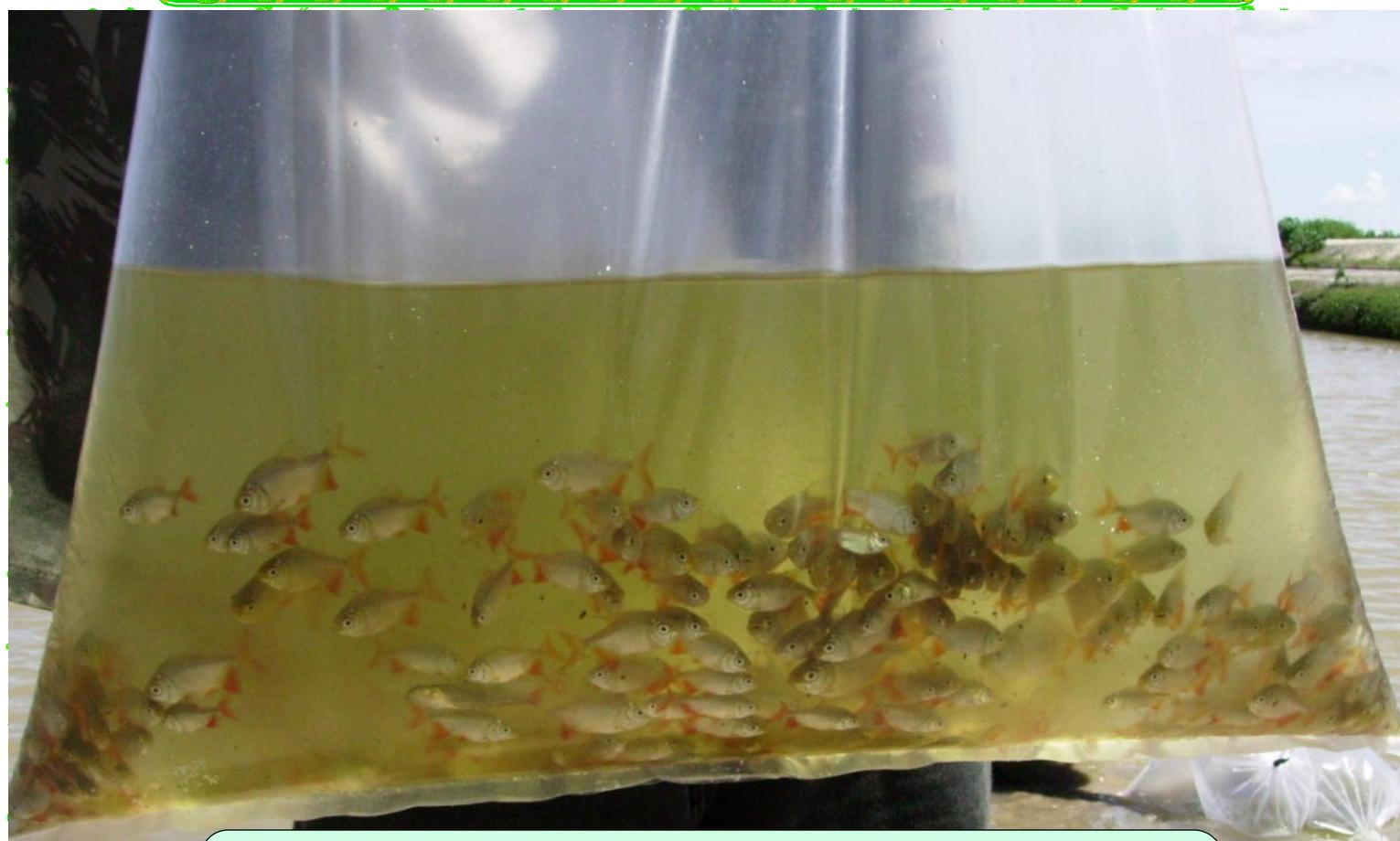
パンタナール通信

南北米福地開発協会

会報

2011年3月1日

90号



地域と世界の食糧問題の解決を目指し、
魚の養殖を本格的にレダにて開始



写真右..池にやつて来た子
ワニ。稚魚が食べられたの
では身も蓋もないというこ
とで、肉片を餌に釣竿の針
に付けて仕掛けて置いたと
ころ、たちまち囚われの身
となりました。お腹が一杯に膨らんでいま
したが、研究の為解剖して
胃の中を調べた所、貝やカ
ニを沢山食べていることが
わかり、素早く対応した為
まだ稚魚は食べられていな
ことが分かりました。

(飯野記)

一月二八日午前十一時、ミリタリー機で飯野夫妻、青木悦子三氏と共に、D.R.ハコブ、マグノ教授（アスンシオン大学水産科）の五人がレダに到着。五千匹のパクーの稚魚も運ばれて来ました。早速ビニール袋に入れて来たパクーの稚魚を、既に中田、大山、青木氏らによって準備されていた池にマグノ教授が、注意深く水温や水のPH濃度等を計測して放流しました。二千五百匹ずつ二つの池に放流されました。（写真左）成長するまでに平均二十%は死んでしまうとのことで、水温、水質と共に餌、更には、ワニや鳥からの被害からの防衛等の研究を重ねながら養殖事業の実験が始まりました。年開けにスタートさせたいという願望で進めて来たプロジェクトです。地球規模で食糧資源の減少が問われ、とりわけ乱獲で水産資源が減少している状況に応えます。自然保護の事業に育てて行きたいと思います。





朝顔のような花の咲く雑木はこの時期群生しています。パクーはこの葉を好んで食べます。



青木さんが餌として枝ごとまとめている。まとめた枝を池に浮かべて固定している。一日たって引き上げるときれいに枝だけになっている。稚魚は未だこの葉を食べないが、この葉の付いた枝の傘で日陰を作つてあげている。



本流からの川の水を入れる為に配管工事が行われました



池の本流側にパルマの苗木を6本植えました。大きくなれば日陰を作ると、その実がパクーの好物だからです

パクーの餌作り 「アルガロボの実」活用

アルガロボは自生して大きくなつた木が基地内に沢山あります。その木にさや状の実がなり、インディヘナの子供たちも食べますが、パクーも食べます。

魚が食べやすいようにこの実を加工し、ペレット状にしてパクーの餌を作りました。



アルガロボの木



アルガロボの実

粉上になったものを篩にかけ、篩を通った粉を小麦粉と4:1の割合で混ぜる。バケツで機械に入れ、より良く混合させます。機械の後ろの袋に混ざった物が出て来ます



佐野氏、アスンションよりレダに移動し、 本格的に牧畜確立の計画中



二〇二一年の牧畜プロジェクトについて

私は、一月二〇日の木曜日にレダに再び参りました。今回はこちらに留まるべく、すべての荷物をこちらに持つてきました。先回（一月八日ー九日）はイスマエル氏と共に、もう一度牛のカウントと耳たぶをつける作業をしました。増えた牛一五〇頭と昨年購入した一〇〇頭の牛には耳たぶがついておらず、それを完成させるためです。牛を二日間コラルに留めおいて、一日目に牛のカウント、二日目に耳たぶの作業と子牛の背中に判を押す作業をしましたが、耳たぶの作業と判を押す作業は膨大ですべては到底終りませんでした。結局、一五頭の子牛をするに留まりました。全部終えるためにはあと二度牛を集める機会を待たなければならないようです。

今年の初めの作業について

一・口蹄疫の予防接種をする。

（年の初めにSENACSAという政府機関がきて行う。）二月はじめを予定。

二・ラタイ牧場のアランブレを修理して、乳離れさせる牛を分離する。（母牛を次の妊娠のために開放。）

三・三月にはオス牛をメス牛から分離する。オス牛の体力回復。

四・牧童小屋をパンタナール牧場に作る。牧童の生活環境を改善。

五・ラタイ牧場のやしの木などを整理して徐々に牧草を植えていく。

六・隣りのジヤイロ氏との道沿い五キロ地点ぐらいに一〇〇ヘクタールを開墾して牧草地を作る。（販売できる牛を肥やせる。病気の牛の回復など。）

七・このプロジェクトは今年の乾季になる予定。

八・牛に耳たぶをつけ、子牛に判を打つ作業を完成させる。

九・何頭かのオス牛を去勢。群れを誘導する役目を担わせる。

馬のコントロール。新しく成長した馬を調教。

課題と予算など

一・牧童の選択。

牧童マリオのアシスタントとして働くインディオの牧童の選択作業。

二・パンタナールの牧童小屋に関しては一万ドル以内で仕上げる目安がついています。オリンポの大工さんでレダでも働いてくれたミゲル氏との話し合いを持ちました。

三・これはハコブ氏の推薦ですが、牧場を整備する際、トラックターの後ろに付ける根を切る機械が非常に重要になつてくるとのことで早速ラタイ牧場の整備に是非必要とのことでロマプラタから購入しようかと思っています。

四・二〇〇ヘクタールの人工牧草地のための開墾の環境省の許可の書類を現ウオルフ氏が更新してくれています。

第14回 ピースライフセミナーの御案内

寒さ厳しい中にも梅の花が咲き、心なごませてくれます。皆様、いかがお過ごしでしょうか。

国や世界に向かうべき私達自身あるいは私達の家庭がどのような方向性、理念を持って
さまざまな問題に取り組み、対処していくかは誰にとっても重要な課題であると思います。
このような時私達は「価値ある生き方」「真実な生き方」を深く知って行動できるようにした
いものです。

第14回ピースライフセミナーで「自分の人生」と「世界の問題」を見つめなおしてみませんか。
新しい本来の自分を発見し、希望ある未来を実現したいと願われる皆様のピースライフセミナ
ーへの積極的なご参加を心からお待ちしております。

☆開催日時 平成23年4月23日（土）～24日（日）

プログラム

4月23日（土）

9:30 受付開始

10:00 開会

講義① 「人生の目的と価値」『問題の根源』『新しい歴史観』 柴沼邦彦先生

講義② 「パンタナール開発と保全」高津啓洋先生

21:00 終了

4月24日（日）

9:30 講義⑤ 「新しい歴史観Ⅱ」 柴沼邦彦先生

13:00 ビデオ上映

講義⑥ 「Rev. Moonとの出会い」 櫻井節子先生

活動報告 「南北米福地開発協会の活動について」

18:00 終了

主催：PeaceSociety（ピースソサイアティ）共催：南北米福地開発協会

連絡先（岩澤）TEL/FAX:042-766-7018

Mail:hmiwasawa@kce.biglobe.ne.jp

（林）TEL/FAX:03-5706-9640

Mail:mitsuh812@gmail.com



地球家族として
自然を守りましょう

南北米福地開発協会
会員の募集中

南米、パラグアイ、パンタナール地域
へのエコツアーナラびに植林活動
を通じて生態系の維持と強化を促進し、その
地域をモデルとし、パンタナール
に環境保護の大切さを訴えています。

会費は月五〇〇円、毎月、パンタナール
通信を送ります。
また、各種のセミナー、エコツアーラ等の
案内をいたします。

南北米福地開発協会 事務局
〒二二三一〇〇一
神奈川県川崎市高津区
溝口三一十一一十五

電話 F a x ○四四一八二九一一八二二一

会費納入 郵便口座 八二九一二八二〇一

一〇一八 ○一七七六八〇四七一

代表 柴沼邦彦

E-MAIL office@asd-nsa.jp
ホームページ
<http://www.asd-nsa.jp>